



12月号

さやまだい

令和2年
2020年12月

さやちゃん

公民館・地区センターだより

まーくん

公民館共催事業 **ほんきっこ講演会開催報告**

11月21日(土)狭山台公民館ホールで、NPO本気であそぶ子応援団共催の講演会が開催されました。講師は冒険遊び場づくり協会代表の“どっくん”こと関戸博樹氏。毎年開催されて、今回で4回目。コロナ禍で来場制限の中39名が受講しました。テーマは“危機的状況だからこそ必要な遊びの話”～遊び心あふれる暮らしを続けよう!～。

講演の内容は①子どもにとっての「遊び」の重要性②現代の遊び環境など社会背景③危機的状況下でも遊びが大事、の三つのポイントに沿って、また隣同士との話し合い(グループワーク)も交えて講義が進められました。



講師：関戸博樹氏



パワーポイントを使ってわかりやすく講義

▶講義の中のポイント▶

- ・人は未熟に生まれ遊びを通して育つ。
- ・時間をかけて、遊びながら『後天的』に育つことが大切
- ・大切なことは自分で決めて自分でやる!
- ・遊び場づくり=つながりづくりの装置
親子のみのつながりから子ども同士が遊び、親同士は見守る(孤立した子育てから脱出)
- ・子どもの遊びに寄り添う=していることを面白がる/頼まれた時だけ手伝う
- ・子どもの遊びを邪魔する=いちいち教える/いちいち指示する/頼まれないのに手伝う

▶グループワーキング▶

隣同士で寄り添う役や邪魔する役と子ども役を交代しながら体験することで、あそぶ子の立場を体験。

- ・子どもへの寄り添いの手順(SLLRP)

立ち止る(Stop) / よく観察する(Look) / よく聴く(Listen) / 反応する(Reaction) / そしてこれがプレーワーク(PlayWork)

質疑応答では、小学校や幼稚園の一斉教育は合わない子どもたちの話題もあり、子育て世代の方々に示唆に富む話満載の講演会でした。

(阿部記者)



グループワーキングで話し合う様子

受講者の声(アンケートより)

*これまでに考えたことのない視点で「遊び」について考えることができました。遊びの治癒効果についての話には目からうろこでした。今後子どもと関わる中で是非参考にさせていただきたいです。(30代女性)

*コロナ禍で、とても我慢を強いられている子どもたちの権利や学びを考えるととてもいい内容でした。このようなお話を多くの人に聞いて頂きたいと思います。(40代女性)

*毎回楽しみにしています。子どもたちの遊びを大人たちが保障しなければいけないという事実等、話が聞けて良かったです。コロナ禍で開催も難しい中、座学でやっていただいていたありがとうございます。(40代女性)

第13回 食のフェスティバル「おいしんぼ祭り in 狭山台2021」

コロナ禍の状況の中ではありますが、3月という先のイベントであることからウイルス感染症感染防止対策を徹底し、狭山台地区の賑わいの場として新しいスタイルで準備をしていきます。新規での出店も歓迎です!

出店、参加する上でご不明な点はお気軽に狭山台公民館までお問い合わせください。

[開催日時] 令和3年3月20日(土)春分の日 11:00~14:00

[場所] 狭山元気プラザ エントランス付近、グラウンド

[出店資格] 主に食品を販売する営利を目的としない個人または団体で、実行委員会の承認を受けた者

[出店料] 1ブース(テント1/2区画)500円 ※出店ブース数は1店舗あたり最大2ブース(テント1つ)

[申請方法] 狭山台公民館にある出店申請書に記入の上、**令和3年1月13日(水)**までに提出してください

[問合せ先] 狭山台公民館 Tel: 04-2957-1271

主催: 第13回食のフェスティバル実行委員会

後援: 狭山台地区センター、狭山台地域づくりをすすめる会、狭山台地区自治会連合会、狭山台地区民生委員児童委員協議会
青少年育成狭山台地域会議、狭山台地域包括支援センター